

# 伝統の相馬流れ山踊り 小高郷が舞う

7月  
センターだより  
おだか  
令和8年度




令和8年度に開催した相馬野馬追において24日の雲雀ヶ原祭場地では「相馬流れ山踊り」が堂々披露されました。力強い唄声に合わせて総勢81人での息の合った踊りは会場を魅了し、伝統と誇りを感じさせるものとなりました。また、踊りには最年少の小学2年生と小高中学生も参加し、25日の野馬懸でも披露しました。

7月1日発行  
小高生涯学習センター  
「浮舟文化会館」  
979-2124  
小高区本町2-89-1  
44-3049  
Fax44-1266



8月から

## 認知症予防講座開講

受講生募集

いつまでも元気でいきいきとした毎日を送るために、認知症予防について楽しく学んでみませんか？

認知症に関する講話や脳トレ、体操などを通して、認知症予防に役立つ知識や習慣、認知症の方への対応の仕方などを学べる講座です。受講生同士で交流しながら、楽しんで参加できる内容とします。

～開催予定日～

- 第1回 8月19日(水)10時～11時
- 第2回 10月上旬ごろ予定
- 第3回 10月下旬～11月上旬



詳しい日程や内容、募集については、  
8月以降に発行するセンターだよりでお知らせします。どうぞお楽しみに！

## 埴谷・島尾記念文学資料館から作品紹介

東日本大震災から15年が経過し、7月は、小高区の避難指示解除からちょうど10年を迎えます。福島第一原発事故に伴い避難指示が出され、私たちは、突然、故郷小高を離れざるを得なくなりました。避難者一人ひとりに、それぞれが体験した物語があったと思います。

小高出身で、2004年に太宰治賞を受賞した作家の志賀泉さんは、東日本大震災後、避難指示が出された小高や双葉地方を作品舞台にした3作品を出されました。それぞれの作品の主人公は、原発被災者であり、それぞれの立場で苦悩し、生きていく姿を描いています。図書館に配架されておりますので、ご興味のある方は、手に取ってみてください。

『無情の神が舞い降りる』 2017年 筑摩書房刊

『百年の孤舟』 2024年 荒蝦夷刊

『爆心地ランナー』 2025年 コールサック社刊

また、2013年には、ドキュメンタリー映画『原発被災地になった故郷への旅 福島県南相馬市』が、映像作家の杉田このみさん監督により製作されました。

志賀泉さんが、小高の海岸や神社など、かつて小高で過ごした場所を巡り、思い出を語るという映像作品です。

くわしくは、

埴谷・島尾記念文学資料館

検索

もしくは、



～太宰治賞～

1964年に筑摩書房が創設した小説の新人賞。2004年に『指の音楽』で受賞。本作品も図書館に配架しております。ぜひ、お読みください。